



TITLE:

米國ノ參戰

AUTHOR(S):

戸田, 海市

CITATION:

戸田, 海市. 米國ノ參戰. 經濟論叢 1917, 5(4): 549-573

ISSUE DATE:

1917-10-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127273>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號四第 卷五第

行發日一月十年六正大

論說

物價變動ノ原因(一).....

法學博士 河上

肇

經濟的行爲ト道德的行爲トノ關係(二).....

法學博士 田島

錦治

所得稅ニ於ケル所得ノ意義(三).....

法學博士 神戶

正雄

同盟罷工ト和解及仲裁制度(四).....

法學士 河田

嗣郎

墨子ノ經濟思想(五).....

法學士 小島

祐馬

割地ト村落制トノ關係.....

法學士 牧野

信之助

現代の保險ノ成立(六).....

法學士 小島

昌太郎

時事問題

米國ノ參戰.....

法學博士 戸田

海市

物價調節ノ意義及效果.....

法學士 河田

嗣郎

雜錄

りすとノ經濟發達階段說.....

法學士 本庄

榮治郎

各國ニ於ケル物價騰貴ノ趨勢.....

法學士 山本

美越乃

戰後ノ太平洋定期航路.....

法學士 小島

昌太郎

朝鮮ノ關稅ニ就キテ.....

法學博士 神戶

正雄

露國ノ定期刊行物ニ就テ(七).....

文學士 高倉

輝

しゆもらあ教授ノ史傳ニ就テ.....

文學士 長壽

吉

時事問題

米國ノ參戰

戸田 海市

一

歐洲戰爭ニ對シテ久シク中立ヲ持シ、特ニ昨年末ニハ講和ヲ提議シタ米國カ、本年ニ入ツテ先ツ獨逸ニ對シ國交斷絶ヲ宣シ、更ニ進ンテ參戰シタコトニ付キ、世人ハ米國ノ眞意ノ何レニ在リヤ、其參戰ハ果シテ眞面目ニ行ハルヘキヤヲ疑フテ居タガ、其後ノ經過ハ急轉直下ノ勢ヲ以テ進ミ、今日ハ最早ヤ米國カ聯合國ノ忠實ナル戰友トシテ最善ヲ盡シツツアルコトニ付キ疑ヲ挾ムノ餘地カナイヤウテアル。今日ノ米國ノ地位ニ於テハ聯合國ニ財政的援助ヲ與ヘルコトヲ最モ容易トスルガ、其援助ヲ爲スニ付テ米國ハ營利的ノ方法ヲ抛テ、從來ノ如ク聯合諸國カ米國市場ニ於テ擔保付キノ高利債ヲ募ルノ方法ヲ停止セシメ、米國政府自カラ愛國のノ低利公債ヲ募ツテ之ヲ聯合國ニ融通スルコトトシタ。當時世間ニハ往々米國ノ此義俠的態度ヲ見テ、是レ米國カ聯合國ニ對シ多々益軍需品ヲ賣付クル爲メ、其取引ニ必要ナル爲替資金ヲ作ルノテアツテ、一見非營利的ナ

ルモ其實ハ賢明ニシテ大膽ナル營利的處置テアルカノ如ク考ヘタ者モアツタ。然ルニ米國ハ其陸軍制度ノ甚タ不完全ナルニ係ハラス、直チニ少數ナガラモ陸兵ヲ歐洲ニ發遣シテ其參戰ノ決意ノ鞏固ナルコトヲ示シタ。米國ノ此出兵ノ實質的效果ハ微々タルモノトシテモ、其ノ交戰國双方ニ及ホス精神の影響ハ頗フル重大デアリ、一面米國自身ニ於テハ背水ノ陣ヲ布ク底、此果斷ノ措置ニ由テ幾分躊躇ノ傾向ヲ有セシ國民ノ戰意ヲ確立シタ。爾來米國ノ參戰計畫ハ雄大ナル規模ニ於テ着々斷行セラレ、一面米國ニ取ツテ破天荒ノ舉タル徵兵制度ヲ行ヒテ有效ナル軍隊ノ組織ト訓練ニ努メ、同時ニ聯合國ノ最モ必要トスル所ノ船腹ヲ供給スル爲メニ大々的造船計畫ヲ立テ、同國ノ製鐵ノ過半ヲ生産スル所ノ製鐵合同ノ如キハ低廉ナル愛國相場ヲ以テ政府ノ造船計畫ヲ助クルコトヲ承諾シ、他面ニ米國ハ巨額ノ戰費支出ヲ決定シテ公債募集ト同時ニ増稅ヲ行ヒ、富者ハ其所得ノ六割五歩ヲ徵收セラルルモ敢テ不平ヲ漏ラサス、貿易ニ付テモ殆ント全都ニ巨ル輸出ノ禁制監督ヲ行フコトトシタ故、勿論戰爭ヲ好機トシテ貿易上ノ利益ヲ收メルコトモ甚タ困難トナツタガ、特ニ注意スヘキハ聯合國ニ成ルヘク多クノ食物ヲ供給スル爲メニ米國民ハ各自進ンテ食物消費ノ節約ヲ行フト同時ニ、其生産ノ増加ニ付テモ大ニ努力シツアル。久シク中立ヲ持シタ米國カ一旦ヒ參戰ニ決スルヤ、國民ノ全力ヲ其遂行ニ傾注シ、是マテ成金の氣分ノ溢レテ居タ米國ノ社會ハ一變シテ嚴肅ナル交戰國の氣分ニ支配セラルルニ至ツタ。此ノ如キ米國ノ有様ヲ以テ歐

洲戰爭ノ初メヨリ之ニ參加シ來ツタ所ノ我國ノ有様ニ比較シテ、吾人ハ無量ノ感ニ打タルト同時ニ米國ハ何カ爲メニ參戰シタリヤヲ尋ヌルコトヲ禁シ得ナイノテアル。

二

凡ソ一國民カ一定ノ行動ヲ探ルコトヲ承認又ハ要求スルニ至ル原因ハ頗フル複雑ナモノデ、國內ニ於ケル種族、職業、黨派、住地等ノ異ナルニ從ヒ其間ニ多少ノ相違アルヲ常トシ、又其原因ノ中ニハ國民ノ明確ナル意識ニ上ラス、國民ハ或原因ニ促サレテ只タ何トナク一定ノ行動ヲ探ラサルハカラストノ感ヲ生スルカ如キ場合モ少ナクナイ。故ニ政府當局者ノ宣言シタ所ノ理由カ必シモ國民全體ヲ動かシタ原因テアルト斷定スルヲ得サルハ勿論、輿論ノ上ニ現ハレタ理由カ必シモ最後ノ原因ヲ指示シタモノトモ云ハレナイ。米國ヲ驅ツテ參戰セシムルニ至ツタ原因モ複雑ナモノテアラウガ、米國民ノ多數ヲ通シテ最モ有力ナル根本原因ノ何ナリヤヲ知ルコトカ必要テアル。

世間或ハ米國ノ參戰ヲ以テ迅速ニ戰爭ヲ終熄セシムルニ在リトシ、交戰國ノ一トナツテ獨逸ヲ破ルコトハ其目的ニアラストスル者モアル。果シテ然ラハ是レ米國ノ昨年末ニ試ミテ失敗シタ講和運動ノ目的ヲハ、更ニ形ヲ變ヘテ實現セントスルモノト云ヒ得ルテアラウガ、併シ此目的ノ爲メニ參戰シタトスレハ、米國カ參戰ニ由テ獨逸ヲ重大ノ不利ニ陥ルルコトハ解シ難ク、又實際米國

民ガ獨逸ヲ惡ンテ之ト戰ハントスル意氣カ甚タ盛ンテアツテ、政府モ其戰意ヲ鼓舞スル爲メ切リニ獨逸ノ罪惡ヲ暴露シツツアルコトモ解シ難ク、特ニ最近米國カ羅馬法王ノ講和提議ニ對シテ獨逸カ軍國主義的ナル現在ノ政治組織ヲ維持スル限リハ其一切ノ誓約ニ信用ヲ置クヲ得スト斷言シ、獨逸ノ政治カ民本的ニ改造セラレテ平和ノ國民トナルマテハ戰ヲ止メスト云フ大膽ナル決意ヲ示シタコトモ解シ難イ。云フ迄モナク獨逸ノ國體ハ未タ封建的臭味ヲ脱セス、其皇室ハ恰モ我國ノ足利氏源氏德川氏ノ如ク貴族武人ノ頭領トシテ霸王ノ地位ヲ占メ、同シク君主制ト稱スルモ我國ノ夫レト異ツテ立憲民本的ノ現代ニ順應シ難キ階級專制的傾向ヲ脱シ得サルモノテアル。故ニ獨逸ヲシテ平和ノ國民タラシムルニハ先ツ其政治ノ上ニ於ケル封建的遺習ヲ一掃セテハナラス。米國大統領カ大膽ニ此點ニ言及シタルハ實ニ獨逸國民ノ爲メニ親切テアツテ、又世界ノ平和ヲ擁護スル勇者ト云ハテバナラス、若シ米國ノ參戰カ聯合國ト一致シテ獨逸ヲ破ルコトヲ目的トセス、他ノ目的ヲ達スルノ手段トスルニ在リトスレハ、聯合國ニ對スル援助ヲ成ルヘク少クシ、其他一般ニ參戰ニ由テ生スル所ノ犠牲ヲ拂フコトニ躊躇スヘキ筈テアルガ、實際ハ上述ノ如ク公私共ニ甚大ノ犠牲ヲ意トセスシテ參戰計畫ノ遂行ニ努メ、特ニ聯合國ニ對シ思ヒ切ツタ援助ヲ與ヘツツアルヲ見レハ、假令ヘ其參戰ニ他ノ目的カ同時ニ存在スルトシテモ、其ハ參戰ノ副因ト云フヘキモノテアツテ、主タル原因ハ獨逸ヲ擊破スルコトテナクテハナラス。

此ノ如ク米國カ獨逸ヲ破ルノ目的ヲ以テ參戰シタトスレハ、吾人ノ先ツ知ラントスル所ハ、米國ヲシテ獨逸ト戰ハシムルニ至ツタ最モ強キ原因カ、獨逸ヲ破ルニアラサレハ自國ノ存立ニ危險有害ナリト感シタコトアルカ、又ハ獨逸カ國際法及人道ヲ蹂躪シテ殘忍ノ行動ヲ爲シ、若クハ米國ノ潛航艇戰ニ對スル抗議ヲ無視シテ傍若無人ノ振舞ヲ爲スコトヲ惡ンテ之ヲ膺懲セントスルコトアルカ、特ニ米國カ繰返シテ宣言スルカ如ク獨逸ノ軍國主義ヲ打破シテ世界ノ平和ト自由トヲ保障セントセルコトアルカ、即チ米國ハ自衛ノ急ニ迫ラレテ已ムヲ得ス參戰シタリヤ、又ハ自衛ノ必要ヲ感スルコト大ナラサルニ係ハラス進ンテ參戰シタリヤノ問題アル。米國民カ衷心ヨリ軍國主義ヲ惡ミ、又人道ノ爲メニ熱スルノ美德ヲ有スルコトハ、吾人ノ大ナル敬意ヲ以テ承認セントスル所アルガ、併シ個人ノ自由ト安全トヲ尊重スルコトノ特ニ大ナル平和主義ノ此民主國カ、生命ト財産トヲ犠牲ニ供シテ戰フヲ辭セサルハ、自衛ノ急ヲ感スルノ強キ結果ト見ルコトヲ穩當トスル。然ラハ獨逸カ戰爭ニ勝ツコトカ何故米國ノ存立ニ甚タ危險ナリヤト云フニ、若シ獨逸カ世界ノ強國ヲ網羅スル所ノ聯合側ヲ盡ク破ルコトヲ得タナラハ、獨逸ハ勿論世界ノ覇王トナリ、之カ爲メ米國モ他ノ諸國ト共ニ苦シマネハナラヌ。特ニ聯合諸國ノ破ラレタ後ニ獨逸ノ目標トナルハ米國テナクテハナラヌ。此場合ニハ豫テヨリ獨逸カ勢力ノ扶植ニ腐心シツツアツタ南米ノ諸弱國カ先ツ侵略セラレ、從ツタ米國ノ國是タルもんろー主義カ破壊セラルルノミナラ

ス、結局ハ米國自身モ危地ニ陷ラサルヲ得ナイ

獨逸カ此戰爭ニ於テ上述ノ如キ決定的勝利ヲ得ルニ至ラサルモ、尙ホ戰局カ多少聯合側ノ不利ニ歸着シタ場合ニハ、米國ハ大ニ獨逸ヲ恐レサルヲ得サル事情カアル、米國ノ經濟ノ發達ニ伴フテ歐洲移民カ非常ノ勢ヲ以テ侵入シ、之カ爲メ本來ノ米人カ之ヲ統一同化スルコトカ困難トナリテ、米國ノ社會ハ混沌タル寄合世帯ノ姿ヲ呈シ、統一セル國家トシテ世界ノ競爭ニ對立スルニ大ナル困難ヲ感スルニ至ツタ。特ニ此ノ外來の勢力ノ中テハ獨逸種族カ最モ優勢ニアツテ、人口ノ上ヨリ見レハ兎モ角、物質的及精神的ニハ殆ント米人ノ壘ヲ磨シ、此儘ニテ押シ進メハ遠カラスシテ米國ハ獨逸系ノ支配スル所トナルノ危險カアル。獨逸本國ノ國勢カ微弱ニアツテ又獨逸移民ノ主ナル部分カ下層民ヨリ成立シテ居タ時代ニハ、獨逸移民ハ爭フテ米國ニ同化セントシ、其ノ獨逸種族タルコトヲ恥ツルノ有様テアツタガ、獨逸本國カ強大トナリ、又米國ニ於ケル獨逸種族カ物質界及精神界ニ頭角ヲ擡クルニ從フテ、獨逸移民ハ米國ヲ獨逸化スルノ氣勢ヲ呈シ、侵略主義ノ獨逸本國ハ又直接間接ニ之ヲ援助シ、内外相應呼シテ米人系ノ勢力ヲ壞崩セシメントスルニ至ツタ。是レ米人ニ取ツテハ實ニ國家ノ存亡ニ關スル大事件テアル。左レハ歐洲戰爭ノ初メヨリ米人系ハ精神的及物質的ニ聯合側ヲ援助シテ獨逸ヲ挫カントシタガ、獨逸系モ亦之ニ對抗シテ盛ンニ活躍シ、米國社會ハ此ノ内的葛藤ノ爲メニ大ナル動搖ヲ示シタ。而シテ獨逸系ノ勢力ノ尙ホ強キ

間ハ米國政府モ中立ヲ守ラサルヲ得ナカツタガ、時日ノ經過スルニ從フテ次第ニ米人系カ優勢トナリ、從ツテ米國ノ輿論モ益反獨逸的トナリ、遂ニ獨逸ト國交ヲ絶ツマテニ至ツタガ、更ニ一步ヲ進メテ之ト交戰狀態ニ入ルニハ先ツ獨逸系ノ勢力ヲ充分ニ壓迫スルコトヲ必要トシタヤウテアル。吾人ハ歐洲戰爭ニ對スル米國ノ態度カ久シク鮮明ヲ缺キテ一進一退ノ狀ヲ呈シ、而モ最近ニ至リ急轉直下ノ勢ヲ以テ交戰狀態ニ入ツタ所以ハ之カ爲メテアルト信スル。若シ米國カ獨逸ヲ恐レテ之ヲ挫カントスル最大原因カ此ノ如キモノテアルトスレハ、其參戰ハ全ク自衛ノ急ニ迫ラレタモノテアツテ、對外戰爭ハ其實對內戰爭チアリ、恰モ以前ノ南北戰爭ノ如ク國家ノ統一國論ノ一定ヲ眼目トスルモノテアル。後ニ論スルカ如ク米國ノ識者ノ中ニハ參戰ヲ利用シテ國防充實ノ素志ヲ貫カントスル者モアルヤウテアルガ、併シ如何ニ大規模ノ海陸軍ヲ設ケテモ、國內ノ異分子カ優勢テアルナラハ國防ハ無效トナルノ危險カアル。故ニ米人ヲシテ獨逸ヲ挫カサルヘカラストノ感ヲ懷カシメ、遂ニ之ヲシテ參戰スルマテニ押シ進メタ最大原因ハ、米人一般ニ意識スルト否トヲ問ハス、上述ノ如キ國論統一ノ必要テアルト信スル。世間ニハ往々米國ハ最初國交斷絶ニ由リ獨逸ヲ屈從セシメントシタルモ、獨逸ノ意氣ハ毫モ之カ爲メニ衰ヘス、陸ニ海ニ益健闘スルヨリ已ムヲ得スシテ一步ヲ進メ、宣戰ニ由リ之ヲ威嚇シテ屈服セシメントシタルモ再ヒ事志ト違ヒ、遂ニ騎虎ノ勢本意ナラスモ戰爭ノ渦中ニ投シタノテアルト觀察スル者モアル。是レ或ハ實際ヲ穿ツタ

説テアルカモ知レヌ。只タ此説ニ從フモ米國カ本來獨逸ヲ恐レテ之ヲ挫カントスルノ意思ヲ有スルコトハ事實デアリ、又何故ニ之ヲ挫カントスルヤノ根源ニ至テハ此説ニ從フモ上ニ述ヘタ所ハ動カナイ。

或ハ曰ク、歐洲戰爭ニ對シテ久シク旗幟不鮮明ナリシ米國カ最近ニ至リ急轉シテ戰爭ノ渦中ニ投シタニ付テハ現大統領ういるそんノ地位ヲ一考スルノ必要カアルト。此説ニ從ヘハういるそんハ血脈上思想上純米人系ニ屬スル者デアツテ、米國社會カ日ニ月ニ獨逸的勢力ノ爲メニ侵蝕セラルルコトニハ固ヨリ反對スル者テアル。只タ氏カ第二期大統領ノ候補ニ立タントスレハ、大數ニ上ル所ノ獨逸系ノ投票ヲ無視スルヲ得ナイ。是レ氏ノ第一期大統領時代ニ於テ獨逸ニ對シ公平ノ態度ヲ採ル必要ノアツタ所以テ、昨年末ニ無勝負ノ講和ヲ提議シタ所以テアル。然ルニ氏カ第二期大統領ニ就任シタ上ハ最早ヤ重ネテ大統領ノ候補ニ立ツヲ得ナイカラ、此期ニ及ンテハ自己ノ理想ヲ意ノ儘ニ斷行スルコトカ出來ル。是レ昨年末ニ講和ヲ提議セシういるそんカ本年ニ入ツテ忽チ獨逸ニ對シ國交斷絶ヲ宣シ、更ニ機ヲ見テ宣戰ヲ斷行セシ所以テアルト、予輩ハういるそんノ人物ノ高邁ニシテ地位ノ得喪ノ爲メニ説ヲ二三ニスルカ如キコトナキヲ信セントスル者テアルガ、併シ論者ノ云フニ如ク彼ノ第一期就任時代ニハ其意見ヲ行フニ付キ種々ノ困難ノアツタニ反シ、目下ノ第二期就任時代ハ彼ノ理想ヲ行フニ容易ナル事情ノ存スルコトハ爭ハレマイ。只タ米

國ノ歐洲戰爭ニ對スル從來ノ態度ノ迂餘曲折ヲ生シタ根本原因ハ前ニ述ヘタルカ如ク同國內ニ於ケル米人の勢力ト獨人の勢力トノ物質的及精神的ノ鬭爭ノ進退消長ニ在リト推斷スルコトカ穩當テアラウ。

三

米國ハ其參戰ノ目的カ獨逸ノ軍國主義ヲ打破シテ世界ノ平和ト自由トヲ保障スルニ在ルコトヲ宣言スルト同時ニ、米國自身ハ參戰ニ由テ何等ノ報償ヲモ求メナイコトヲ聲明シタ。若シ其參戰ノ根本原因ニシテ果シテ上述ノ如ク自衛ノ急ニ迫ラレタモノトスレハ、獨逸ノ軍國主義ヲ打破シテ之ヲ平和的國民タラシムルコト自身ニ由リ米國ハ充分ノ報償ヲ受ケル譯テアルカラ、此外ニ敵國又ハ友國ニ對シテ何等ノ報償ヲ求メナイト云フ聲明ニモ信用ヲ置クコトカ出來ル。世間或ハ米國ノ參戰ノ動機ヲ以テ獨逸ノ軍國主義ヲ打破スルノミナラス、同時ニ我國カ聯合國ヲ援助シタ報酬トシテ支那又ハ南洋方面ニ侵出スルコトノ承認ヲ得ントスルヲ防止スルニ在リト論シ、或ハ更ニ進ンテ恰モ我國ノ一部ノ論者カ支那ニ對シテ優越權ヲ占メ、列國ヲ排シテ獨リ自カラ之ヲ指導シ利用セント主張スルカ如ク、米國モ參戰ノ報酬トシテ南米ニ對スル同様ノ優越權ノ承認ヲ得ントシ、若クハ更ニ太平洋ニ對スル優越權ヲモ得ントスルニ在リト論スル者カアル。先月モ既ニ一言セシカ如ク世界ノ大勢ヨリ見テモ、民主的ノ米國カ平和ナル經濟上ノ對外發展ヲ國是トスルコト

ハ近キ將來ニ變化ヲ來タスヘシトハ考ヘラレナイ、從ツテ又其もんろー主義ニ付テモ今回ノ參戰ニ由テ論者ノ云フカ如キ變化ヲ企テルモノトハ考ヘラレナイ。無論米國ニ於テモ其他ノ國ニ於ケルカ如ク侵略論者ハ存在シナイテハナイガ、今回ノ參戰ニ由リ侵略論カ優勢トナツテ今後ノ輿論ヲ支配スルニ至ルヘシト推斷スルハ當ヲ得ナイト信スル。

米國カ正當ナルもんろー主義ヲ主張シ、即チ世界ノ強國ノ侵略ニ對シテ羅甸亞米利加諸國ノ保全ヲ主張スル間ハ、此等諸國ハ大ニ米國ヲ德トシテ之ニ感謝スルノ念ヲ生セストシテモ、敢テ米國ニ反抗スルノ態度ニ出テナイノテアルガ、一旦米國カ正當ノ限界ヲ越ヘテ羅甸亞米利加ニ對シ指導後見の優越權ヲ主張セントスレハ、南米諸國ハ盡ク起ツテ強烈ニ之ニ反對シ、彼ノ夷ヲ以テ夷ヲ制スルト云フ支那外交ニ類スル態度ヲ探テ歐洲強國ト結托シ、以テ排米運動ヲ企テルノテアル。故ニ米國カ羅甸亞米利加ト親善關係ヲ保タントスレハ單ニ南米保全ヲ主張スルヲ以テ足レリトシナイ。更ニ此等諸國ノ獨立ヲ尊重スル根本主義ノ上ニ立テ其保全ヲ主張スルコトヲ必要トスル。是レ尙ホ日支親善ヲ實現セントスレハ我國カ單ニ支那保全ヲ主張スルヲ以テ足レリトセス、支那ノ獨立ヲ尊重スル精神ヲ以テ其保全不可侵ヲ主張スルヲ要スルト異ラナイ。莫大ノ天然資源ヲ埋藏スル羅甸亞米利加ノ存立發展ニハ外資ノ輸入ヲ最モ必要トシ、資本ノ輸入カアツテ初メテ富源開發ニ必要トスル所ノ移民ノ來住モ可能トナルノテアルガ、從來英國ヲ初メ歐洲諸國ノ南米投

資ハ遙カニ米國ノ上ニ出テ居ル。故ニ歐洲諸國ハ米國ニ對シ參戰ノ報價トシテ南米ヲ指導シ利用スルノ優越權ヲ承認スルコトヲ欲シナイテアラウガ、假リニ歐洲諸國カ之ヲ承認スルトシテモ、米國ニ取ツテ見レハ此ノ如キ優越權ヲ主張スルコトハ實際ニ不利益テアル。特ニ注意スヘキハ今日マテ南米ニ對シ最モ多ク資本ヲ投下シタルハ英國其他ノ歐洲諸國テアツタガ、此等ノ諸國ハ今次ノ戰爭ニ由リ莫大ノ資本ヲ消耗シタ上ニ、戰後ノ恢復ノ爲メニモ多大ノ資本ヲ必要トシ、從ツテ戰後ニハ南米開發ノ爲メニ以前ノ如ク投資スルノ餘裕ヲ多ク有タナイニ反シ、米國ハ假令ヘ參戰ニ由リ相當ニ資本ヲ消耗スルモ尙ホ戰時ニ於ケル產業ノ急速ノ發達ニ由リ大ニ投資力ヲ増加シタカラ、戰後南米ノ資本ノ需用ヲ充タスニ付テ最モ有力トナルテアラウ。故ニ米國ハ南米人ノ嫌惡ト列強ノ嫉妬妨害トヲ挑發スルカ如キ形式的ノ優越權ヲ主張セサルコトカ、事實上南米ニ對シテ勢力ヲ伸張スル所以トナルノテアル。我國ノ支那ニ對スル關係モ稍之ニ類スルノテアルガ、由來我國民ハ後進ノ一小國トシテ人種ヲ異ニスル強大ノ歐米列國ニ對峙スルノ必要上自然ニ露骨ナル勢力主義ノ崇拜ニ傾キ、加フルニ日清日露ノ戰爭ニ由リ國運ヲ開イタト云フ歴史ヲ有スルカ爲メニ軍國主義ノ崇拜者トナリ、之カ爲メ實際上ノ大損失ヲ顧ミスシテ妄リニ形式的ノ對支優越權ヲ主張スルノ風ヲ脱シナイ。然ルニ米國ハ其社會組織カ軍國主義ノ跋扈ニ極メテ不適當ナルカ上ニ我國ノ如キ歴史ヲ有セサル故、其對南米策ヲ定ムルニ付テモ實際ノ利害ヲ冷靜ニ考量スルコト

ヲ忘レナイテアラウ

世界ノ強國中特殊ノ地位ヲ占ムル米國ハ久シク軍備ノ必要ヲ感シナカッタガ、國力ノ増進ト政治上經濟上ノ對外關係ノ發展トニ伴フテ次第ニ軍備ノ必要ヲ感シ、特ニ今次ノ歐洲戰爭ニ由リ其感カ極メテ痛切トナリ、其結果先ツ海軍ノ大擴張及之ニ伴フコトヲ要スル海運事業發展ノ大計畫ヲ立テ、又陸軍ヲモ擴張改善セントシタガ、多年極端ノ平和主義ヲ採リ來リシ米國ニ於テ其計畫ヲ實現スルコトハ甚タ困難ノ事業テアル。然ルニ米國カ一旦參戰ヲ斷行スルトキハ最早ヤ軍備ノ擴張改善ニ躊躇スルヲ得サルコトナリ、米國民モ參戰ノ斷行ニ由リ意氣興奮スレハ平素ノ微漫的態度ヲ抛ツテ眞面目ニ國防充實ニ努メルコトトナル。故ニ米國カ參戰スルコトハ實ニ軍備ノ擴張改善ニ非常ノ便宜ヲ與ヘルノテアル。參戰ヲ斷行スルニアラサレハ米國ニ於テ徵兵制度ヲ設クルコトノ甚タ困難ナルハ勿論、其海軍擴張ヲ有效ナラシムルニ必要ナル海運業ノ發達ヲ圖ルニ付テモ、參戰ヲ斷行シテ大規模ノ造船計畫ヲ立テ、之ニ由テ偉大ナル商船隊ヲ造ルト同時ニ造船業ノ急速ノ發達ヲ促カスコトニ由リ初メテ可能トナルノデアル。故ニ國防充實ヲ實現スルコトカ米國當局者ノ參戰斷行上重要ノ一動機タリシコトハ想像シ得ルノテアルガ、併シ之ヲ以テ其ノ主タル動機ナリト斷定スルハ當ヲ得ナイ。若シ米國ノ參戰カ獨逸ヲ破ルコトヲ主トセス、自國ノ軍備擴張ノ實行ヲ主トスルナラバ、聯合國援助ノ努力ヲ成ルヘク少ナクセントスルコトカ自然ノ勢テアル

ガ、今日米國民ノ意氣込ヲ見レハ其參戰ハ極メテ眞面目ナモノテアル。故ニ假令ヘ政府當局者ノ間ニハ參戰ヲ軍備擴張ニ利用スルコトニ重キヲ置ク者アリトスルモ、輿論ハ之ヲ許ルサナイテアラウ。故ニ米國參戰ノ主因ハ獨逸ヲ擊ツテ米國ノ獨逸化スルコトヲ防キ、米國ヲシテ米人ノ米國タラシムルト云フ自衛ノ觀念テアリ、國防充實ノ目的ヲ實現セントスルコトハ其副因テアルト解スルコトヲ穩當トスル。

四

米國ノ參戰カ戰時及戰後ニ於ケル世界ノ政治上及經濟上ニ及ボス影響ハ頗フル重大視スヘキモノテアツテ、之カ研究ハ諸方面ヨリ着手スヘキ大問題テアルガ、予輩ハ茲ニ其參戰ノ主因カ上述ノ如キモノテアルトスレハ、我國ノ對外策ト如何ナル交渉ヲ生スヘキヤヲ考ヘテ見タイ。世間ニハ支那カ參戰シテ戰後ノ平和會議ニ一席ヲ占ムルコトトナレハ、我國ノ侵略的ナル對支發展策カ大打撃ヲ蒙ルコトヲ恐レテ其參戰ニ反對シタ者カ少ナクナカタガ、此種ノ對支策ヲ固執スル論者ニ取ツテ米國ノ參戰ハ固ヨリ支那ノ參戰ト比較ノ出來ナイ大恐慌ヲ起サシムルハ當然デアラウ、米國ノ國是カ平和ナル經濟的發展ヲ圖ルニ在リトスレハ、其ノ軍國主義ニ反對スルハ獨リ獨逸ノ夫レニ對シテ起ルノミナラス、我國ノ軍國主義ニモ當然ニ反對スヘキテアル。獨逸ノ如キ侵略主義ノ國ニ對シテハ或侵略的利益ヲ之ニ承認スル代リニ我國ニ對シテモ同様ノ利益ヲ交換的ニ

承認セシメ、以テ彼我ノ調和ヲ保チ得ル場合モアリ得ルガ、平和主義ノ米國ニ對シテハ我國モ平和主義ヲ採ラ予ハ之ト調和ヲ保ツヲ得ナイ。我國カ獨逸ニ對シ宣戰シテ聯合國側ノ一員トナツタ後ニ及ンテモ尙ホ日英同盟ヲ呪フテ獨逸ニ同情スル者ノ少ナクナカツタノニハ種々ノ原因モアルテアラウガ、外國人ノ中ニハ之ヲ以テ我國ニ軍國主義の思想ノ旺盛ナルカ爲メニ、獨逸ノ軍國主義ニ對シ強烈ナル反感ノ起リ得サルト同時ニ、聯合諸國ノ民本主義ニ對シ深厚ナル同情モ起リ得ナイノテアルト考ヘル者モアツタヤウテアル。特ニ注意スヘキハ晚近米國ニ於テ國防計畫カ重要視セラレ、戰爭以來之カ實現ニ付テ大努力ヲ爲スニ至ツタ一大原因ハ、實ニ獨逸ヲ恐ルルト同シク又ハ一層多ク我國ノ侵略主義ヲ恐ルルカ爲メテアツタコトハ爭ハレナイ事實テアル。只タ米國ハ我國カ日支交渉事件ノ失敗ニ懲リテ當分ハ同様ノ侵略策ヲ繰返スノ勇氣ナカルヘシト信シ、特ニ米國ハ我國ノ此失敗ニ由リテ我實力カ未タ歐洲諸國ヤ米國ノ反對ヲ抑ヘテ侵略主義ヲ行フニ足ラサルモノト考ヘテ、太平洋方面ニ對スル不安ノ念モ稍薄ラキ、從ツテ米國ニ取リ一層差シ迫ツタ獨逸ノ軍國主義ノ危險ヲ防クコトニ着手シタノテハナイカト考ヘラレル點カ少ナクナイ。米人中ニハ我國ノ聯合國ヲ援助スルハ何ノ目的ナリヤヲ明カニセヨト論シ、若シモ其目的カ援助ノ代償トシテ東洋南洋方面ニ對スル侵略の野心ヲ満足セントスルニ在リトスレハ、我國ヲ以テ聯合國ヤ米國ノ眞ノ味方ト認メサルノ意ヲ示ス者カアルノハ當然ト云ハネハナラヌ。

此ノ如ク米國ハ獨逸ヲ破ルコトヲ主眼トシテ參戰シタノテアルガ、必ラスヤ同時ニ平和會議ニ重要ノ發言權ヲ得テ我國ノ軍國主義ヲ挫クコトヲ希望スルニ相違ナク、又米國ノ此希望ハ直接ニ我カ侵略策ノ犠牲トナル所ノ支那ノ熱望ニ合致スルハ勿論、聯合國ノ一般ニ希望スル所テアルニ相違ナク、特ニ露國カ共和政體ヲ確立シテ平和會議ニ臨ムコトトナレハ、以前ノ日露協商ノ時代トハ事情カ一變スルカラ、必ラスヤ露國モ我國ノ軍國主義ヲ恐レテ之ヲ壓迫スルコトニ全力ヲ注クニ相違ナイ。世界ノ大勢ニ反スル者カ世界ヨリ孤立スルノ悲運ニ陥ルハ當然テアル。昨今米國ハ參戰計畫ノ遂行ニ伴フテ其經濟モ交戰國の状態ニ移リ、貿易上ノ制限ヲ加フルコトモ次第ニ嚴重トナリツツアル。米國ノ鐵ノ輸出禁止ガ我金屬工業ノ活動ヲ殆ント不能ニ陷ラシメントシツツアルカ、更ニ世界貿易ノ決済ノ中軸トナレル同國ノ金輸出制限カ嚴重ニ行ハルトキハ、我國ノ輸出モ輸入モ全ク萎縮セサルヲ得ナイ。此上米國カ更ニ生絲絹織物等ノ非必需品ノ輸入ヲ制限スルニ至レハ、我國ノ經濟ハ致命傷ヲ受ゲテ或ハ歐洲交戰國以上ノ疲弊ニ陥リ、戰後ノ競争ニ於テハ慘澹タル悲境ニ沈ムノ虞カアル。實ニ我國ノ今後ノ運命ハ主トシテ米國ノ態度如何ニ由テ決セラるルカ如キ狀態トナツテ來タ。

米國カ眼前ノ經濟上ノ損得ニ多ク拘泥セスシテ眞面目ニ參戰計畫ヲ遂行スルコトナレハ、如上ノ貿易上ノ禁制ヲ行フコトカ其遂行ニ必要又ハ有利トナルコトハ爭ハレナイ。故ニ我國ハ米國カ不

必要ニ我國ヲ苦シムルモノナリトシテ之ニ對シ異議ヲ申立テルコトカ出來ス、只タ我國ニ對シ多少ノ不利不便ヲ忍ブノ好意ヲ有セヨト懇望シ得ルニ止マル。世間ニハ我國ヨリ米國ニ船舶提供ノ如キ交換條件ヲ供シテ鐵や金ノ輸出禁止其他ノ貿易制限ヲ解カシムルコトカ難クナイト考ヘル者カ少ナクナイ。予輩モ亦スクアランコトヲ望ム者テアルガ、併シ我國ハ米國ニ對スル我カ要求ニ比敵スル程ノ重大利益ヲ之ニ對シテ提供スルノ實力カナイ。故ニ交換條件ニ由テ此問題ヲ解決スルコトヲ必要トシテモ、吾人ハ其結果ニ付キ決シテ樂觀スルヲ得ナイ。例ヘハ米國ノ參戰ノ一原因カ國防充實ヲ斷行シ、特ニ其海軍大擴張ヲ有效ナラシムル爲メニ海運業及造船業ノ大發展ヲ圖ルニ在ルコト前述ノ如シトスレハ、我國ニ造船材料ヲ供給シテ造船業ヲ發達セシメ、以テ我カ海上權ヲ強大ナラシムルヨリモ、寧ロ米國自身ノ造船業ノ急速ノ發達ヲ促カスノ必要ヲ感スルテアラウ。從來世界ノ鐵ノ半バ三千萬噸ノ大部分ヲ國內ノ金屬工業ニ由テ消化セシ米國ノ偉大ナル工業能力ヨリ推算スレハ、此際米國カ急速ニ其造船業ヲ發達セシメルコトハ敢テ不能テアルマイ。此事タル金屬工業ノ極メテ幼稚ナル我國ニ於テモ、近來雨後ノ筍ノ如ク造船所ノ發生スルヲ見テモ明カテアラウ。更ニ米國カ聯合國援助ノ一方法トシテ財政的援助ヲ極メテ寛大ニ行ヒ、特ニ聯合國ノ國際支拂ヲ一手ニ引受ケ、同時ニ米國カ戰後ニ於テ國際金融ノ中心タル地位ヲモ保タントシテ其金準備ノ擁護ニ努メ、其結果我國ニ對スル金流出ニ付テモ嚴重ノ制限ヲ行ハントスルトキハ、

我國ハ果シテ如何ナル交換條件ヲ提供シテ其制限ヲ緩メシムルヲ得ルヤ。又今日ノ如ク米國カ英佛ニ多ク讓ラサル多大ノ支出ヲ爲シテ參戰ノ實行ニ努ムルトキハ、如何ニ米國カ富メリトハ云ヘ、時日ノ經過スルニ從ツテ國民ノ奢侈ヲ制限スルノ必要ヲ生スルテアラウガ、其制限ノ一方法トシテ生糸絹織物等ノ輸入ノ禁止制限ヲ行フコトナレル場合ニ、我國ハ果シテ如何ナル交換條件ヲ提供シテ其禁制ヲ解カシムルヲ得ルヤ。要スルニ參戰ノ實行ニ伴フ米國ノ貿易制限ハ我國ヨリ些々タル交換條件ヲ提供シテ之ヲ解除セシムルコトハ困難ト考ヘネハナラヌ。予輩ハ必シモ米國カ今日ヨリ直チニ其禁止制限ヲ嚴格ニ行フヘシト云フノテハナイガ、戰爭ノ永ク繼續スルニ從フテ其禁制力次第ニ嚴重トナルハ避ケ難キ勢テアルト信スル。

假リニ戰時ニ於ケル米國ノ貿易制限ハ幸ニ我國ノ希望スルカ如ク寬和スルコトヲ得ルトシテモ、予輩ノ米國ニ望ム所ハ單ニ既約ノ鐵材數十萬噸ノ積出ヲ許セヨトカ、少クトモ我カ印度棉花ノ購入ニ必要トスル丈ケノ金貨輸出ヲ許ルセヨトカ、又ハ戰爭中モ生絲絹織物ノ輸入ヲ許ルセヨトカ云フカ如キ目前ノ問題ニ止マラス、後ニ論スルカ如ク戰後英國ヲ初メ世界ノ諸大國ノ對外經濟策ヲ健全寬大ナラシメテ我國ノ發展ヲ阻止セサルヤウ之ヲ牽制スルニ付キ、米國ノ熱心ナル協力ヲ得タイト云フ大問題テアル。此ノ如キ意味ニ於テ日米問題ヲ満足ニ解決スルニハ、豫テ予輩ノ主張スルカ如ク我國カ徹底的ニ軍國主義ヲ抛テ、多年日米衝突ノ中心原因トナレル支那問題ニ付テ

ハ勿論、大平洋問題ニ付テモ双方互ニ侵略獨占策ヲ嚴禁シ、更ニ一步ヲ進メテ世界ノ侵略者ニ對シ兩國相協力シテ東亞及大平洋ノ不可侵ヲ擁護スルコトヲアル。我國カ自カラ軍事主義ヲ抛チテ世界ノ平和ヲ主張シ、其結果獨逸ノ軍國主義ヲ排スル爲メニ聯合國ヲ援助スル地位ニ立ツタトキ、茲ニ初メテ我國ハ米國ノ眞ノ戰友トナリ、之ニ對シテ相互ニ便宜ヲ圖ルコトヲ要求スルノ權利ヲ生シ來ルノテアル

我國モ世界ノ大勢ニ順應シテ軍國主義ヲ排シ民本主義ヲ採ルコトヲ必要ト認メ、又外ニ對シテ軍國主義ヲ主張シ乍ラ内ニ在テ憲政ノ進歩ヤ民本主義ノ發達ヲ望ムコトヲ以テ矛盾ナリト認ムル吾人ニ取ツテハ、支那ノ參戰ハ勿論、米國ノ參戰ニ付テモ何等憂フル所ハナイ。米國ノ參戰ハ獨リ獨逸ノ軍國主義ヲ打破スルニ多大ノ効果アルカ故ニ之ヲ歡迎スルノミナラス、戰後聯合諸國カ過度ニ國防ノ充實ヤ國民經濟ノ獨立ヲ重要視シテ排他的經濟策ヲ採リ、之カ爲メ世界ノ平和ヲ確立セントシテ起シタル戰爭ノ意義ヲ沒却シテ新タニ國際紛擾ノ原因ヲ作り。特ニ此種ノ政策ニ由リ我國ノ經濟的發展ヲ阻止スルニ至ルノ危險ヲ防禦スルニ付キ、米國ハ實ニ我國ニ取ツテ無二ノ味方トナリ得ルノテアル。何トナレハ聯合諸國ノ排他的經濟策ハ獨リ我國ヲ害スルノミナラス、米國ニ對シテモ大ナル損害ヲ加フルカラテアル。米國ノ諸工業ハ戰爭ヲ機會トシテ偉大ノ發達ヲ爲シ、從ツテ戰後ニハ後進國中ノ支那ヤ南米ノミニ販路ヲ求ムルヲ以テ満足スルヲ得ス、更ニ進シ

テ歐洲諸國ヤ加奈多濠洲印度南亞等ノ聯合國領土内ニモ其販路ヲ求メネハナラヌ。又米國ハ天然資源ニ富メル國ヲハアルガ、其工業ノ發達スルニ從フテ次第ニ原料ヲ汎ク諸外國ヨリ輸入スルノ必要カ増加シ、殊ニ羊毛、護謨、黃麻等ノ如キ特種ノ重要原料ニ付テハ之ヲ濠洲海峽植民地印度等ニ求ムルノ必要ヲ感シ、又米國ノ希望スルカ如ク此戰爭ヲ機會トシテ偉大ナル海運業ヲ建設シ得ルニ於テハ、戰後世界ノ要地ニ散布セル聯合國ノ港灣ニ自由ニ寄航シ得ルコトヲ必要トシ、從ツテ聯合國カ其廣大ナル領土ヲ閉鎖獨占スルカ如キ政策ヲ採ルコトハ、戰後ノ米國ニ取ツテモ大ナル打撃トナル。故ニ聯合國ヲシテ成ルヘク門戸ヲ開放セシムルコトニ付テ我國ハ米國ト有效ナル提携ヲ爲シ得ルノテアル。只タ今日マテハ戰後ノ國際經濟關係ヲ決定スルノ形式ニ付キ我國ハ聯合國ノ經濟同盟ニ加入セルニ反シ、米國ハ未タ之ニ加入セサルノミナラス、最近羅馬法王ノ講和提議ニ對スル回答ノ中ニモ此ノ如キ同盟ヲ否認シテ居ル。併シ此事タルヤ決シテ日米兩國ノ間ニ於ケル前述ノ提携協力ヲ妨ケルモノテハナイ

聯合國ノ經濟同盟ナルモノハ、同盟諸國カ戰時中ハ勿論戰後ニ於テモ經濟上互ニ相扶クルト同時ニ、敵國ノ侵略策ニ對シテ共同防禦ノ方法ヲ講スルコトヲ目的トスルモノテアル。故ニ此同盟ノ戰後ニ關スル規約ノ中共同シテ敵ノ不當ノ侵略ヲ防禦スルト云フ個條ハ、武力的戰爭ヲ終リシ後ニモ敵國カ依然トシテ侵略主義ヲ實行スル場合ヲ豫想シタモノテアル。換言スレハ聯合國カ獨

逸ノ軍國主義ヲ打破スルコトヲ目的トシテ起セル戰爭ニ失敗シ若クハ充分ノ成功ヲ收ムルヲ得サルカ爲メ、已ムヲ得スシテ更ニ經濟手段ニ由リ特種ノ鬭爭ヲ繼續シア行フコトヲ意味スルモノテアツテ、其目的ハ以前ノ武力的戰爭ト全ク同一テアル。此同盟ノ組織ニ由テ聯合諸國ハ假令ヘ武力ノ戰爭ニ由リ成功スルヲ得サルモ尙ホ獨逸ノ軍國主義ニ對シテハ飽クマテ反抗シテ止マサルノ決心ヲ明カニシタノテアツテ、其態度ハ實ニ徹底ノテアル。故ニ米國カ果シテ獨逸ノ軍國主義ヲ打破ノ確乎タル目的ヲ有スルモノトスレハ、不幸ニシテ武力的戰爭ニ由リ其目的ヲ達シ得サル場合ニハ、矢張り經濟同盟ニ加入シテ本來ノ目的ノ貫徹ニ努メルコトトナルテアラウ。只タ政略上ノ問題トシテ見ルニ、聯合國ノ中心ヲ爲ス所ノ英佛ハ其戰意ノ鞏固ナルコトヲ示スト同時ニ與國間ノ結束ヲ堅クシ、又世界ノ中立國ヲ成ルヘク味方ニ引入レル爲メニ經濟同盟ヲ組織シ、之ニ加入シテ獨逸ト戰フコトヲ欲セサル國ハ後日經濟上ノ不利ヲ蒙ムルコトヲ示スノ必要ヲ感シタノテアツテ、同盟加入ノ形式ヲ探ルト否トヲ問ハス、苟クモ聯合國ヲ助クル爲メニ參戰シタ友國ニ對シテ不利ヲ蒙ムラシムルノ意思ハナイノテアル。然ルニ自發的ニ聯合國ヲ助クルコトニ由リ獨逸ノ軍國主義ヲ破ラントセル米國ハ、其戰意ノ確乎不動ナルコトヲ示スカ爲メ羅馬法王ノ講和提議ニ答フルニ獨逸カ軍國主義ヲ抛タサル限リ之下講和セサルコトヲ以テシ、特ニ米國ハ獨逸國民ヲ惡ンテ之ヲ苦シメントスル者ヲナク、獨逸國民ヲ軍國主義ノ道具トシテ濫用セル現政治組織ニ反對ス

ル者ニアリ、從ツテ獨逸カ軍國主義ヲ抛ツニ於テハ戰後ニ至リ經濟同盟ノ如キ手段ニ由テ之ニ損害ヲ蒙ラシムルノ意思ヲ有セサルコトヲ示シ、以テ成ルヘク獨逸國民ヲシテ自カラ進ンテ其軍國主義打破ノ運動ヲ行ハシメンドシタ。聯國諸國モ初メヨリ戰爭ノ目的カ獨逸ヲ侵略シ獨逸國民ヲ苦シムルニアラスシテ、其軍國主義ヲ打破スルニ在ルコトハ繰返シテ宣言セル所デアリ、又經濟同盟ノ戰後ニ關スル規約ノ中獨逸ニ敵對スル經濟手段ヲ採ルハ、其不當ナル侵略ヲ防禦スルコトヲ條件トシテ居ル。故ニ此點ニ付テ聯合諸國ト米國トノ間ニハ何等ノ衝突ヲ生シナイ此ノ如ク聯合國ノ經濟同盟ノ規約ノ中、戰後獨逸ニ對シテ經濟上ノ敵對手段ヲ採ルノ條項ハ、獨逸ノ侵略主義ヲ打破シ盡シタリト認ムル場合ニハ適用ヲ見ナイガ、此場合ニ於テモ其他ノ條項就中聯合國カ經濟上相扶クルノ條項ハ儼然トシテ存續スル。此事タル同盟條約ノ條文ノ解釋上主張シ得ルノミナラス、此條約ヲ產ミ出シタル戰爭其物ノ目的ヨリ見テモ爭ハレナイ。此戰爭カ獨逸ノ軍國主義ヲ打破シテ世界ノ平和ト自由トヲ保障スルニ在ル以上ハ、戰後ニ於テ聯合各國カ互ニ經濟上ニ排他政策ヲ採ツテ再ヒ平和ヲ攪亂スルカ如キハ甚シキ自家撞着テアル。只タ聯合諸國カ血ヲ流シテ自國ノ存立ヲ圖ルト同時ニ世界ノ平和ヲ維持スル爲メニ戰ヒツツアルヲ傍觀セル中立ノ諸國ハ、戰後聯合國ニ對シテ與國間ノ如キ經濟上ノ利益ヲ受クルコトヲ主張スルノ權利ナク、只タ其恩惠ヲ乞ヒ得ルニ止マル。是レ實ニ世界ニ正義ヲ行ハレシムル爲メニ必要ノ制裁ヲアツテ、世界ニ正義カ行

ハレナクテハ其平和ト自由トヲ保ツコトモ出來ナイ。戰後聯合諸國カ通商上如何ニ中立國ヲ待遇スヘキヤハ未決ノ問題ヲアツテ、多クノ國ハ之レニ對シ無條件最惠國待遇ヲ與ヘサラントスルヤウテアル。是レ與國中立國及敵國ノ差別的待遇ヲ認ムル所ノ經濟同盟條約ノ實行上當然ニ來ル結果テアル。只タ我國ニ取ツテ重大ナル問題ハ中立國ヲ如何ニ取扱フヘキヤテハナク、聯合諸國カ國防ノ充實及國民經濟ノ自立ニ熱中シ、假令ヘ其目的ハ各自ノ正當防衛ニ在リトスルモ、其實際ノ結果カ與國ニ對シテモ甚シキ不利ヲ及ホスカ如キ極端ニ走ルコトヲ如何ニシテ牽制スヘキヤテアル。我國ニシテ眞ニ軍國主義ヲ否認シテ平和ノ發展ヲ國是トスララハ、聯合國ヲ牽制スルニ付キ米國ハ我國ニ對シ無二ノ味方トナリ得ルヲ疑ハナイ。從來米國ノ貿易ハ農產物ノ輸出ト工業品ノ輸入ヲ主トセルカ爲メ、其貿易策ハ自主的保護稅ヲ定メテ國內工業ノ發達ヲ圖ルコトニ重キヲ置キ、其輸出ニ對シ諸外國ヲシテ門戸ヲ開放セシムルコトヲ等閑ニ附スルト云フ消極的ノモノテアツタガ、今次ノ戰爭ニ由リ米國ノ經濟ハ新紀元ヲ劃シ、戰後ニハ其工業及海運業ニ對シ諸外國ヲシテ門戸ヲ開放セシムル積極的ノ努力ヲ必要トスルヤウニナリ、從ツテ聯合諸國カ戰後過度ノ門戸閉鎖ヲ實行スルノ危險ニ對シテハ、我國ト協力シテ之ヲ牽制スルコトヲ利益トスル

聯合諸國カ戰後經營上目下切リニ其國民經濟ヲ成ルヘク獨立セシメ、特ニ其廣大ナル植民地ヲ閉鎖獨占スルノ計畫ニ熱中シツアルニ付テハ種種ノ原因モアルガ、其最大原因ハ世界ノ平和ニ付テ以前ノ如ク過度ニ樂觀セス、寧ロ反動的ニ過度ノ悲觀ニ傾キ、從ツテ國防ヲ安固ナラシムルコ

トヲ非常ニ重大視スルニ至ツタ爲メテアリ、世人ノ往々憂フルカ如ク此等ノ國カ民主々義ヲ排シテ軍國主義ニ傾キツ、アルカ爲メテナイコトハ先月既ニ論シタ如クテアル。元來聯合諸國ハ商業ノ大發達ヲ爲セルカタメ廣ク世界ニ原料ト販路トヲ求メル必要カアリ、從ツテ各自ニ國民經濟獨立策ヲ行フテ互ニ相排斥スルコトハ非常ノ苦痛テアル。故ニ戰後ニ於テ世界ノ平和ニ付キ樂觀シ得ル狀態ニ達スルナラハ、其排他的經濟策ヲ大ニ寛和セシムルコトカ出來ル。此點ヨリ見ルモ我國ハ世界ノ平和ヲ確立スルカ爲メニ最善ヲ盡スヲ必要トシ、此目的ヲ達スルカ爲メニハ先ツ我國自カラ平和政策ヲ確立シ、就中東洋南洋方面ニ關シテハ開放ト不可侵ノ原則ヲ確立シテ自他共ニ之ヲ嚴守スルコト、シ、以テ歐米及支那ニ安心ヲ與ヘルコトヲ最先ノ急務トシ、同時ニ世界ノ平和ヲ威嚇スル獨逸ノ軍國主義ヲ破ルカ爲メ聯合國及米國ニ對シテ適當ノ援助ヲ與ヘルコトヲ惜ンテハナラヌ

五

米國ノ參戰ニ付テ上ニ述ヘタ所ハ其特有ノ國情ニ基イテ推斷シタモノテアルガ、併シ之ト同時ニ今次ノ歐洲戰爭ハ貴族的軍國主義ヨリ民主的の平和主義ニ向ヒツ、アル世界ノ大勢ヲ阻止スルモノテナク、却テ之ヲ促進スルモノテアルコトヲ一般的前提トシテ立論シタノテアル。此大勢ノ進展ニ付テハ是マテ種々ノ機會ニ於テ論シ、特ニ本誌前號ニハ戰後ニ於ケル軍國主義ト民主々義ノ消國民ノ自由ト平和トヲ保障スルノ作用ヲ爲ステアラウ。又從來無產者カ國家ヲ否認シ軍備ニ反對

長ヲ題目トシテ論述シタガ、更ニ序ヲ以テ茲ニ此問題ニ付テ一言ヲ補足シタイコトカアル。夫ハ民主主義ヲ主張スル所ノ無産者階級カ此戦争ニ由リ其主張ニ付テ大ナル道德的權威ヲ生スルニ至ルコトガ、戦後ノ世界ヲシテ益民主的ナラシムル重要原因トナルヘキコトアル。戦前ニ貴族有産者ハ民族的文化ニ立脚セル現代國家組織ノ維持ヲ主張スルニ反シ、無産者ハ概テ世界主義ニ傾キテ今日ノ如ク多數ノ國家ノ獨立ヲ否認セントシタ。然ルニ各國民カ進歩シテ其文化カ下層ニ普及スルニ從ヒ、民族思想ハ寧ロ益鞏固トナリツ、アツテ、其ノ人類ヲ支配スル力ノ甚タ強烈ナルコトハ拒ムヘカラサル事實テアル。故ニ無産者カ世界主義ヲ主張スルコトハ、假令ヘ意識的ナラストシテモ自他ヲ欺クモノトシテ批難セラレタ。彼等ノ世界主義ノ主張ハ理論上如何ニ巧妙ヲ極メテモ、其主張ハ自己ニ忠實テナイト云フ根本ノ缺點カアルトセラレタ。然ルニ今次ノ戦争ニ於テ各國ノ無産者ハ何レモ自カラ進ンテ祖國ノ難ニ赴キツツアツテ、戦後ニ於ケル彼等ノ主張ハ最早ヤ民族ノ自主獨立ヲ否認シテ一足飛ヒノ世界主義ヲ主張スルコトハナイテアラツ。人類ノ自由解放ナルモノノ内容ハ各國民ニ特有ノ色彩ヲ帶フルモノテアルカラ、今後ハ無産者モ人類ニ祖國ナクシテ其自由解放ノ成立シ得サルコトヲ認メルテアラウ。從ツテ彼等ノ主張ノ中人類ノ拔クヘカラル本然ヲ無視スルモノトシテ從來最モ危險視セラレタ點ハ除キ去ラレルコトトナリ、而モ從來ノ難駁ナル世界主義ノ中ニ含マレテ居テ進歩セル人類ノ共鳴ヲ生スル貴重ノ要素ハ、獨立セル各

スルニ傾イテ居タコトニ付キ、有産者ハ之ヲ以テ無産者カ國家公共ノ爲メ喜ンテ一身ヲ犠牲ニスルノ道德的勇氣ヲ缺クモノノ如ク批難シタガ、此批難モ今次ノ戰爭ニ由テ掃ヒ去ラレ、今後無産者ハ假リニ世界主義ヲ主張スルニシテモ、何等憚ル所ナク之ヲ主張シ得ルノテアル。尙ホ各國ニ於ケル有産者及無産者ノ戰爭ニ對スル活動ニ付テ見ルニ、無産者ニ在テハ壯丁ノ大部分ハ戰場ニ出テテ祖國ヲ守リ、後ニ殘レル婦女老幼ハ戰時ノ物價暴騰ヲ償フニ足ラサル勞銀ノ増加ニ満足シテ軍需品及生活必需品ヲ作ルカ爲メニ過激ノ勞役ニ服セルニ反シ、有産者ノ多クハ物價ノ暴騰ニ由テ大ナル利益ヲ受ケシノミナラス、彼等ノ中ヨリ巨大ナル偶然利得者即チ戰爭成リ金ヲ輩出セシメタ。固ヨリ各國ハ財政ノ必要ヲ充タシ又負擔ノ公平ヲ保ツカ爲メニ戰時ノ偶然利得ヲ徵收シ、又此ノ如キ利得ヲ生スル重要事業ヲ管理監督スルコトヲ努力シツツアル。世間或ハ戰時利得稅ヲ以テ割合ニ收入少ナク又其實行困難ナリトテ之ニ反對スル者モアルガ、國家カ之ヲ自然ニ放任シテ顧ミサルトキハ民衆ノ不平カ甚シクナリ、遂ニハ其愛國心ヲ毀クルノ大事ヲ生スルニ至ル故、有産者ニ對シテモ充分ノ戰時負擔ヲ爲サシメントシツツアル。只各國ニ於ケル此等ノ努力アルニ係ハラス、此戰爭ハ財産分配ノ上ニ不公平ナル大變化ヲ來タシ、以テ現在ノ私有財産制度ノ缺點ヲ最モ明了ニ民衆ノ前ニ暴露シツツアル。故ニ戰後ニハ社會主義者ノ主張スルカ如キ極端ナル制度ヲ實行シ得ナイトシテモ、現在ノ制度ニ對シテハ著シキ改良ヲ加フルノ必要アルコトヲ承認セサルヲ得サルニ至ルテアラウ。